

令和3年度自己評価表

鳥取県立八頭高等学校

【中長期目標(学校ビジョン)】

【今年度の重点目標】

1 主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。	1 授業に集中 ① 高校生活や授業におけるマナーの徹底 ② 全教科で公開授業や研究授業を実施するとともに、積極的にA LやI C Tに係る研修に取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。
2 チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。	2 行事で団結・部活は熱中 ① 本校独自の活動を通して八頭高生としてのアイデンティティーを育むとともに、地域から信頼される学校作りを行う。 ② 生徒の悩みに的確に対処し、心身の健全な発達を促すとともに、学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営を行う。
3 地域連携の主体となり、地域に根ざした学校としての役割を果たす。	3 進路に挑戦 ① 基礎学力の確実な定着に取り組むとともに、生徒の習熟度に応じた高い学力の育成を図る。 ② 多様な進路に対応しながらも安易に妥協させず高い志望に挑戦させる。

	具体的項目	令和3年度当初			評価結果(10月)		
		現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 授業に集中	高校生活や授業におけるマナーを徹底する。	・98%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけている。(生徒がルールやマナーを守っていると評価している保護者の割合は98%、職員の割合は99%)	・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が98%	・自律的にルールやマナーを守ろうとする八頭高生の育成を目指し、挨拶の重要性やマナーの遵守について粘り強い指導を行い、様々な機会を捉えて保護者の理解を図るとともに、生徒に対しては「伝わる」指導を行う。 ・学校評価アンケートの結果を分析し、教育活動の改善に生かす。 ・生徒保健委員会生活リズム調査を通年実施し、保護者との連携を図りながらルールづくりを進めるなどしてスマートフォンの長時間利用者の指導を継続する。	・大半の生徒は爽やかな挨拶ができ、ルールを守る姿勢も良好である。登下校時のマナーも比較的良好であり、自律的にルールやマナーを守ろうとする態度が育っている。 ・登下校時に歩きスマホやイヤホンを利用している生徒がおり、注意すれば直すが自律的に直すには至っていない。また、深く考えず頭髮服装違反をする生徒が各学年数名出てきている。 ・生徒保健委員による生活リズム調査を実施した。その結果については、SHRでの呼びかけ、保健便りでの発信、学校保健委員会での報告と協議を通して生徒の意識レベルも少しずつ向上してきている。	B	・登下校時のマナーで歩きスマホやイヤホン利用による危険性について、交通安全啓発運動期間にSHR等で働きかけ、粘り強く対応していく。また、これくらい大丈夫だろうと深く考えずにルール違反する生徒に対して、気がついた時に全職員でルールを守る大切さへの意識改革を働きかけるとともに、学年・部活動顧問とも連携して改善を図っていく。 ・生徒保健委員の生活リズム調査による啓発活動は引き続き実施する。放送による昼食時の声かけを継続することや、保健LHRの企画を通してさらなる意識の向上と実践化に努めたい。
	全教科で公開授業や研究授業を実施するとともに、積極的にA LやI C Tに係る研修に取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。	・AL9の視点をもとに生徒の活動やICTの活用を積極的に取り入れ、延べ15名の教員が公開・研究授業を実施。 ・外部講師を招いて昨年11月に授業改革研修会を実施。示範授業と研究協議により、探究活動における「問いづくり」について見識を深めた。 ・昨年11月段階で1日あたりの学習時間は、1年生102分、2年生91分、3年生144分。うち、1年生2時間以上は35%、2年生2時間以上は28%、3年生3時間以上は38%。6月調査と比べて減少している。	・生徒の自宅学習時間が1、2年生90分、3年生200分 ・教員のICT活用力を向上させ授業に積極的に活用し生徒の理解向上の一助とする。 ・AL9の視点を持って、全教科で公開授業を実施	・各教科で年に2回(6月・10月)に研究授業を実施する。 ・研究授業は、事後に合評会を実施し授業者・見学者の今後の授業改善につなげることを基本とする。 ・Google Workspace for Education、スタディサブリ活用等に係る研修を実施し、ICTの得意分野を教員が理解し、省力化を図るとともに、生徒の学習を補助するツールとしていく。 ・授業改革研修会を実施し、ICTに係るスキルの向上を図る。 ・各教科のICT係を1名決めて、情報担当教諭とともにICTの有効活用について知識を深める。各係は、科会等で伝達を行う。その知識をスタディサブリの利用などにも広げ、課題や補習の省力化・生徒の学習時間の確保を図る一助とする。 ・定期的に自宅学習時間調査を行い、担任の個人面談や教科担当者の時宜を得た面談をとおして効果的な学習を支援する。	・研究授業の実施者は、6月は1名であったが10・11月に13名が予定。 ・GoogleClassroomは諸連絡用に学校・学年・学級単位のクラスルームを作成するとともに、オンライン授業に備えて授業単位のクラスルームを作成。全体への諸連絡や、授業ごとの指示連絡等に多くの教職員が活用している。 ・新型コロナウイルス感染症対策として急遽オンライン授業を実施することとなり、研修会や事前の接続確認を経て実現することができた。 ・授業改革研修会は未実施 ・教科におけるI C T係は、情報担当教員のスキルを伝える役割としては機能することができた。 ・自宅学習時間調査(4月)において、1日の平均宅習時間は1年104分、2年93分、3年99分であった。1年生は目標に達しているが、2、3年生は達しなかった。特に3年生の宅習時間がとれていない。	C	・公開授業については、年度当初の教科会で早めの担当者決定を促す必要性があった。また、教務配布の研究授業連絡用紙には各教科1名以上と記しており、教科間の研究授業の頻度に偏りが生じている。3～4年で全ての教員が研究授業を行う等、実施の形態の変更を検討する。 ・研究授業時、同一教科の教員の時間を空けるよう、時間変更を極力行う。授業実施後の合評会の実施を行うよう声掛けをしていく。 ・オンライン授業の実施についてはスピード感を持ち全体で対応することができた。今後は、何が必要かを考えオンライン対応以外のICT活用能力を充実させることが大切と考える。 ・スタディサブリは、現3年生が全員加入していないので、緊急時の学習ツールとしては活用できない現状がある。反転授業にも利用可能なので、効率的に利用するために全員加入が望ましい。 ・評価に関する研修、ChromeBook活用に関する研修を12月に実施予定。 ・オンライン授業対応時、会計年度任用職員の先生方への伝達が難しかったが、教科のICT係を中心に対応することができた。(難解なところを情報職員が担った)休業対応などで、情報担当職員の業務過剰な状態が続いたが、状況をみて情報担当と教科ICT系の研修の機会を設ける必要性がある。 ・自宅学習調査(4月)の状況は前年度生徒との比較においては、全てにおいて前年度の生徒のほうが上回っていた。但し、前年度のものは(コロナの影響で)6月集計のデータであり、一概に比較はできない。11月のデータを精査する必要性がある。

	具体的項目	令和3年度当初			評価結果(10月)		
		現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2 行事で団結・部活は熱中	本校独自の活動を通して八頭高生としてのアイデンティティを育み、地域から信頼される学校作りを行う。	・八頭高愛し愛され運動の参加者は、第1回(6月)が371名、第2回(11月)が297名、延べ人数668名であった。全校生徒数(767名)に占める割合は87%で、年度当初の目標値を大きく超えることとなった。 ・昨年度1年生の総合的な探究の時間より探究活動を実施。今年度より2年翠陵探究が開始。	・八頭高愛し愛され運動への参加者が各回とも全校生徒の30%以上 ・探究活動(1・2年生)をとおして、課題等に関する思考力や実行力が向上したと考える生徒の割合が60%以上 ・探究活動(2年生)をとおして、地域の理解が深まったと考える生徒の割合が70%以上	・八頭高愛し愛され運動、中学生体験入学、翠陵祭八頭高ライフ体験等の諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画・実施に取り組むとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。 ・探究活動のプログラムの充実を図り、生徒が主体的に行動できる教材を開発する。 ・地域への理解を深めるため、キャリアパスポートの活用を充実させるとともに、アンケートを実施して生徒の意識、理解の変容を把握する。	・6月に実施した「愛し愛され運動」に、生徒265名が参加した。全校生徒751名の約35.3%の参加となった。総体の各競技が延期開催となり、参加しにくい状況のなか、各部活動の生徒が積極的に参加した。 ・探究活動のプログラムの改良を継続的に行っている。2年翠陵探究の鳥取大学・企業との連携も計画通り実施中。 ・第1回アンケートにおいて、思考力等の向上意識の割合「はい」37.6%「どちらかといえばはい」56.3%。また、地域理解の深まりの意識の割合「はい」42.0%「どちらかといえばはい」53.7%。概ね良好であった。	B	・11月上旬の第2回「愛し愛され運動」では、1、2年生のみの参加となるが、執行部の呼びかけにより、何とか目標の30%をクリアしたい。 ・探究活動を主体的な活動とするためのプログラム開発は今後とも検討が必要。生徒の興味関心を引き出す資料づくりや指導者のスキルアップを図るための情報提供等が今後とも一層必要と考える。 ・思考力や実行力、地域理解の深まり等に関して、肯定的な意見は90%を超えているが、積極的な肯定的意見「はい」の割合を向上させたい。後期は、全学年とも情報収集・分析・発表等の活動が入り、また、2年翠陵探究では、大学や企業連携で外部の方との接触がある。このような取り組みを充実させることで、積極的な肯定的意見「はい」の割合を向上させたい。 ・キャリアパスポートのより有効な活用について検討する。
	生徒の悩みに的確に対処し、心身の健全な発達を促すとともに、学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営を行う。	・86%の生徒(保護者78%)は、八頭高は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。 ・感染症の影響で、高校総体等多くの全国大会が中止となった。少ない競技のなかで、全国大会に出場した体育コース生は10名(探究・総合コースは23名)であり、運動部活動において活躍するとともに、リーダーとして実績を残した。	・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が85%、保護者の割合が80% ・全国大会に出場した生徒数が80人	・日々の生徒観察や声かけ、hyper-QUの分析・検討会、個別面談、教育相談・特別支援委員会、教育相談係・保健係連絡会、人権教育LHR等を通して生徒の悩みを把握する。 ・教職員同士がコミュニケーションを密に取り合い、保護者との連携も図りながら生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう指導・支援する。 ・教職員及び関係者がコミュニケーションを密に取り合い、随時協議し、保護者との連携も図りながら生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう指導・支援する。 ・体育コース・類型のみならず、全校で特色ある行事を継続実施し、学習面、生活面の充実を図り、学校生活、部活動のリーダーとしての自覚を促す。	・「いじめアンケート」2回、「Hyper-QU調査」2回実施し、悩みを抱えている生徒についての情報共有を行った。クラス担任、学年団、教育相談係を中心に、クラス毎にQU検討会を行った。また、人権教育LHRを2回実施し、その後の人権教育推進委員の意見集約などを通して、生徒の悩みや要望も把握した。 ・支援の必要な生徒については、学年団、教育相談係、各教科担任と情報共有し、必要に応じて保護者面談などを実施した。 ・探究ゼミ、翠陵探究などの活動の他、体育類型、看護医療類型では特色のある行事や講演会を企画・実施し、生徒のキャリア形成の一助とした。 ・全国大会については以下の40名が出場。 ホッケー男子 15名、女子 15名、 陸上競技 1名、書道 2名、放送 7名 このほか、任意で活動している地域社会研究会(11名)が、大学等主催の歴史フォーラムやポスターセッション等に参加し、全国上位の評価を受けた。	C	・2月のいじめアンケートについても、アンケート結果の情報共有を行い、生徒支援に活かしていく。 ・10月に実施のQU調査についても、事後のQU検討会で情報共有を行っていく。また日頃からクラス担任、学年団や生徒支援部で連携を密にして、生徒の変化に迅速に気づき対応していく。 ・類型の特色ある行事・事業については内容の精選を図った上で継続して実施する。 ・今後の各種大会で、各部活動の健闘に期待したい。全国大会出場が期待できる部もあり、何とか目標の80名をクリアしたい。
3 進路に挑戦	基礎学力の確実な定着に取り組むとともに、生徒の習熟度に応じた高い学力の育成を図る。	・進路を実現するために目標に向かって努力している生徒(11月)は、1年69%、2年76%、3年97%である。	・進路実現に向けて努力している生徒の割合が1年生70%、2年生75%、3年生95%	・進路指導のための事業や、各コース・類型、各分掌及び学年等の諸行事について、その意図・意義を生徒にしっかり理解させ実施することにより、視野を広げ、キャリアデザインにつなげていく。 ・キャリア教育全体計画に基づき、キャリア設計講演会、「大学生に聞く」講演会、長期休業中補習、勉強合宿、土曜自習・質問教室などの活動を通して進路選択と学力向上を図り、進路実現をより確かなものにしていく。	・キャリア設計講演会や難関大講演会、小論文講演会など、一部リモートでの実施とはなったが、生徒のキャリアデザインに向けての動機づけとすることができた。 ・夏季勉強セミナーには1年125名、2年77名が参加した。3年生については勉強合宿を予定していたが実施できなかったため夏季学習会を実施し92名が参加した。 ・昨年度実施できなかった夏季補習には102名が参加した。3年の放課後補習はⅠ期67名、Ⅱ期102名、Ⅲ期97名が受講、Ⅳ・Ⅴ期は109名が受講を予定している。 ・土曜自習室には大学生のアシスタントティーチャーのべ12名、生徒約130名が参加し、熱心に学習に取り組んだ。放課後質問教室でもアシスタントティーチャーのべ7名の参加があり、各回とも20名程度の生徒が質問などに利用し、積極的に学習に取り組んだ。	C	・リモート対応であっても効果的な講演会のあり方や勉強合宿に代わる学習会などをさらに充実したものとなるように改善していく必要がある。 ・3年生においては放課後補習だけでは十分な受験対応とならず、自由参加型の学習会などを実施し、主体的に学びたいという生徒がさらに力をつけていける環境を整えていく必要がある。 ・ブロック大以上の大学を目指す生徒については2年次の後半には過去問の添削指導を受けるように促していく。 ・地元大学である公立鳥取環境大が共通テストの英語においてRとLを1:1とするなど、リスニング対策を強化する必要がある。 ・共通テストを含む大学入試において読解力や思考力・判断力が重視される傾向が強い。生徒が受け身の姿勢で授業を受けるのではなく、自分で課題を見つけ解決しようとする姿勢を持つなど主体的に学習に取り組むように、授業を始めすべての教育活動の場面で指導することが必要。
	多様な進路に対応しながらも安易に妥協させず高い志望に挑戦させる。	・国公立大学志願者(10月)は、1年133名(4月113名)、2年135名(1年4月126名)、3年105名(1年4月126名)である。大学入学共通テスト受験者は130名(総合・探究コースの57.5%)であり、前年比13名減であった。国公立大学合格者数は40名、うち現役は29名。	・国公立大学合格者数が60人 ・大学入学共通テストの受験者数が150人	・生徒との個別面談等をとおして、1、2年生は進路志望の確立とその実現に向けてなすべきことを強く意識させ、目標に向けて自律的に行動できる態度を育成するとともに、3年生は決定した希望進路の実現に努める。 ・大学・学部・学問研究の充実によって、将来のキャリアを見据えた上で何を学ぶべきかを考えさせ、具体的な進路目標に向けて努力する態度を育成する。	・進路志望調査(4月)による国公立大学志望者は1年107名(44%)、2年131名(55%)、3年124名(47%)であり、3年生の国公立大学志望者は昨年度と比較して増加した。専門学校志望者は医療・看護系志望者を中心に3年49名(19%)、2年44名(18%)、1年36名(15%)となっており、特に1年生において例年より少ない。多様な進路志望を持った生徒がいる中で、難関大を含む高い志望に向かって努力をする生徒を育成するためには国公立大志望者数の増加を図らなければならない。本年度は特に地元大学への志望者を増やすため、公立鳥取環境大学との共同企画を多く取り入れた。 ・大学入学共通テスト出願者は131名であり、昨年より1名の増加であったが、目標に届かなかった。	C	・大学の模擬授業や説明会などを行い、大学進学への意識を高めさせる工夫をしていく。 ・大学・学部・学問研究の一層の充実のために生徒自身が主体的に進路情報を収集・活用できる環境を充実させる。進路指導室や生徒自習室において情報端末を使用した情報収集や学習ができるようにする必要がある。 ・面接指導やLHRに資する有用な資料を紹介・提供する。 ・各大学の入試結果や志望動向をもとに入試情報を分析・研究する。

評価基準 A：十分達成 [90%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]